

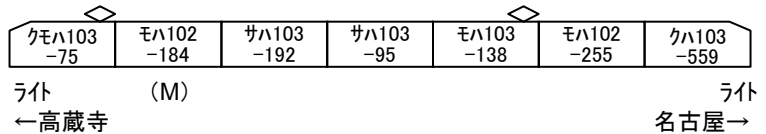
<b>A0555</b>	<b>103系 JR東海色タイプ 7両セット</b>	<b>予価:21,800円(税別)</b>
		JANコード: 135174 カートン内入数: 12
<b>A0781</b>	<b>103系-1000番台 青帯 東西線 基本6両セット</b>	<b>予価:21,400円(税別)</b>
		JANコード: 107676 カートン内入数: 12
<b>A0782</b>	<b>103系-1000番台 青帯 東西線 増結4両セット</b>	<b>予価:12,000円(税別)</b>
		JANコード: 107683 カートン内入数: 12

<b>商品形態</b>	Nゲージ塗装済完成品(素材:ABS樹脂製 対象年齢:14歳以上 ブックケース入り)
<b>実車</b>	<p>中央線名古屋地区では朝夕のラッシュに対応するため、1977(昭和52)年頃から103系が投入されました。塗装はスカイブルーで、側面行先サボの使用やデフロスタを装備した運転台窓などに他の地域の103系とは異なった特徴が見られました。JR東海が発足した後は、1991(平成3)年頃より更新工事が行われました。外部塗装がアイボリーをベースに湘南色の帯を窓下に配した「JR東海色」と呼ばれるものに変更されました。その後も先頭車側面帯部に入っていたJRマークが車体裾へ移動してオレンジ色化されるなど、細部の仕様変更が見られました。</p> <p>営団地下鉄(現:東京地下鉄)東西線へのJR相互乗り入れ車両として301系・103系1200番台が活躍していましたが、1989(平成元)年に輸送力増強および冷房改造に伴う予備車確保のために松戸電車区から103系1000番台が10両編成で三鷹電車区に転入しました。転入当初は黄色帯でしたがまもなくスカイブルー帯に塗り替えられました。301系・103系1200番台が分散冷房装置で冷房改造されたのに対して103系1000番台は全車集中冷房装置を搭載しており、先頭車最前部の戸袋窓が埋められている点と併せて唯一の存在として異彩を放ちました。全車とも後継となるE231系800番台の投入に伴い、2003(平成15)年に引退しました。</p>
<b>商品概要</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイクロエース通勤型電車シリーズの更なる充実</li> <li>・103系シリーズのバリエーションモデル</li> <li>・ヘッドライト、テールライト、行先表示、運番表示点灯。LED使用</li> <li>・フライホイール付動力ユニット搭載</li> </ul>

**アイボリーの車体にグリーンとオレンジのライン**



編成図 A0555



- ・床下グレー化後の姿
- ・側面のJRマークが小型化され、車体裾に移動した後の姿
- ・部品共用のため、ボディ形状が実車と異なります

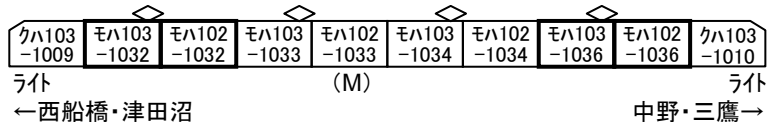
JR東海承認済

**ライトグレーのボディに水色のライン**



編成図

A0781 A0782



- ・集中冷房装置搭載

JR東日本商品化許諾済

<b>オプション</b>	幅広室内灯:G0001/G0002/G0003/G0004, マイクロカプラー密連・灰:F0002(A0555)
<b>付属品</b>	行先シール 密連・黒:F0001(A0781/82)